

着

mono 通信

yoroduya

2022・8 vol.47



原町本店
〒975-0003
南相馬市原町区栄町2-83
TEL:0244-24-2929

いわき店
〒970-8026
いわき市平三倉69-8 第2地産ビル1F
TEL:0246-85-5298

みなさまこんにちは！8月です！6月の驚異的な暑さからのあつという間の梅雨明け、その後7月は梅雨戻りのような気候が続く、各地で豪雨による被害などのニュースもありました。アメリカやヨーロッパでも猛暑による山火事など、自然災害は世界中に広がっていて、為すすべもなく心を痛めております。

さて、そんな暑さの中でも毎日着物生活を送っている私ですが、よく「涼しそうね」とか「着物って涼しいでしょ？」などと街で声を掛けられることもしばしば・・・

そんな時大声で言いたい「涼しいから着ているのではないですよ～」と。確かに、袖口や身八つ口は風通しが良く涼しいと感ずることがあります。暑くても夏に着物を着たい理由はただ一つ！素敵だからです！夏の着物の素材感、透け感、どれもこれもおしゃれで素敵だから、暑さなんてへっちゃらなんです！しっかり汗を吸ってくれる肌着をきちんと着ているので、汗でべたべたになることもないし、着物に汗ジミもできないのでお手入れの心配もありません。夏は着物を着たくない方も、夏着物デビューしてみませんか？暑さ対策や、コーディネートなどどんなことでもご相談ください。

＜ ガラス細工アクセサリー作り体験会 ＞

6月にいわき店にて、ガラス細工でアクセサリーを作る体験会を開催しました。ブローチにも帯留めにもなる手作りのアクセサリー作りにみなさん真剣に楽しく取り組んでいました。



6月23日と24日の2日間で7名の方が参加されました。親切丁寧なご指導の下、初めての方でも安心してアクセサリー作りに挑戦しました。ご自分の好きなガラスパーツを選びレイアウトしていきます。細かい作業なのですが、ピンセットの扱いも皆さん上手で、黙々と作業していました。パーツを糊付けしてから、先生がご自宅で焼いて下さり金具を取り付けて完成。ガラスのパーツが溶けて、素敵な色合いのアクセサリーになりました。金具は、ブローチとしても使える安全ピンと帯留めの金具がついているので、用途に合わせてどちらでも使える優れものです。

体験会では、みなさん真剣に作業を行いながら、もちろんおしゃべりにも花が咲き、終始楽しい体験会となりました。手作りの自分だけのガラスアクセサリーの仕上がりにみなさん大変喜んでいました。

また機会があれば、このような体験会を開催したいと考えておりますので、どうぞお楽しみに！！



予約受付
中です！

ふびす足袋 お見立て会

いわき店:8月4日(木)～6日(土)
原町本店:9月8日(木)～10日(土)
予約優先 ※各店舗までご連絡ください

人気商品「こたび®」は花緒ズレ、足裏の汗、浮腫みなどのほか、足のアーチがなくなり開帳足・外反母趾・足裏のタコ・浮き指の為にアーチコルセットとして開発されました。「こたび®」を靴下の中に日常的に履くことにより、体のお悩みが改善されたとの声も！足から全身を健康な状態に戻してみませんか？若女将も半年以上履き続け、外反母趾の痛みが軽減されてます！！

こたび®の足合わせも
できますよ！



2019年グッドデザイン賞受賞

＜ よろづ屋 きものがたり～秩父銘仙～ ＞

全国の紬や染めの産地のお話や、きものまつわるあれこれをご紹介しますコーナー
第20回目は、大正ロマンを感じる絵画のような大胆な柄が特徴

その歴史は、崇神(すいじん)天皇の時代、知々夫彦命(ちちぶひこのみこと)が、養蚕と機織りの技術を人々に伝えたことが起源と言われています。秩父地方の地形は山々に囲まれていることから稲作は難しく、養蚕業が盛んになりました。野良着として生産された「太織(ふとおり)」と呼ばれる織物が生産され評判になり、「鬼秩父」と呼ばれ庶民の普段着として普及していきます。庶民に愛されると同時に緻密で堅牢という織物の特質から武家にも重宝されるようになり、さらに「太織」は「秩父銘仙」と呼ばれるようになり、引き継がれた伝統と改良された技術により、明治中期から昭和初期にかけておしゃれ着として広く普及し最盛期を迎えます。1908年(明治41年)、坂本宗太郎氏により特許取得された「解し捺染(ほぐしなっせん)」の技法が開発されると、大胆でデザイン性のある柄が全国的に人気になりました。秩父銘仙の特徴は、糸に型染めをするため、裏表がないように染色される平織りの織物ということです。裏表がないため、何度も仕立て直しができ、長く使

アンティーク着物としても大人気!



用できることから庶民の間に広まりました。使用される糸は生糸や玉糸、真綿のつむぎ糸、あるいは、くず繭やくず生糸などを原料とする紡績絹糸(ぼうせきけんし)などの、あまり高級でない糸を使用することからも一般の人たちに普段着として愛されてきた織物です。模様銘仙は仮織りした後、染色することから「ほぐし捺染(なっせん)」と呼ばれ、また、仮織りの緯糸(よこいと)をほぐしながら織っていくので「ほぐし織り」と呼ばれる技法で製織します。秩父銘仙の魅力は、布に玉虫色



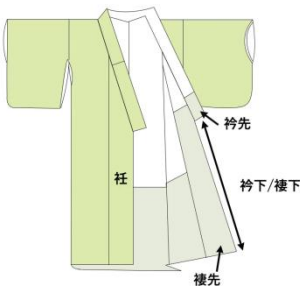
の光沢があることです。型染めされた経糸(たていと)と緯糸のそれぞれ違う色を使うことで光沢が生まれてきます。経糸と緯糸の色の組み合わせが補色であるほど、その効果は際立ちます。秩父銘仙は平織りで裏表がないため、何度でも仕立て直しができ、最後はオシメや雑巾にまで使い回しができる織物として愛されています。

知っておきたい寸法のこと

せっかくのお誘いの着物、みなさんご自分の寸法はご存知ですか? 仕立てる際や購入時の参考に、寸法のことをもっと知りましょう。

～その4 裄下～

今回は裄下(衿下ともいいますが)についてです。以外にあまり気になさらない方が多いのですが、裄下の長さによって着姿や、着心地が変わってくるとも重要な寸法の一部です。まず、裄下が短いと、衿先がたくさん見えて見栄えが悪くなります。腰紐に衿先がしっかりと入らないと着崩れる原因になるのですが、衿先が出すぎるのも問題です。また、裄下が短いと足が短く見えてしまっ、全体のバランスが悪くなります。逆に長すぎる裄下だと、衿先が腰紐にしっかりとかからないので、着崩れの原因になり、風が吹くたびに上前が剥がれて常に裾が気になる状態になります。好みにもよりますが、裄下の妥当な寸法は身長 \times 2分の1がベストです。特にお茶のお稽古などをされている方は、裄下が長いと正座をした時に上前がきっちり足を覆ってくれません。上前を巻いて着たとしても、裄下丈が長いとはだけてしまいます。



今月のおススメ!

腰紐 860円(税込)
仮紐 770円(税込)

今回のおススメ商品は、着付小物の必需品「腰紐」と「仮紐」です。腰紐は普通ピンクや白の無地のモスリン生地の商品が主流ですが、腰紐だってこだわりたい! おしゃれなものを使いたい! という方におススメの柄の可愛い腰紐たちです。綿100%なので、滑らずにしっかりと結ぶことができます。着崩れの心配もありません。また、柄の腰紐は、たすき掛けの紐として使ってもカラフルで楽しい気分になります。やる気を出したい時のたすき掛けいいですよ～。

柄はお好みで選んでください。ちょっとしたプレゼントにもいいですね。そして、使って便利な「仮紐」です。帯結びの時に皆さん仮紐を使用すると思いますが、普通の腰紐では前で結ぶのに長過ぎませんか? 結んでる間にもたもたしてしまっ帯が緩んでしまった、お太鼓がずれてしまったなどの経験はありませんか? 通常の腰紐は並み尺で2mほど、長尺だと2m30cmの長さがあります。今回ご紹介する「仮紐」は長さが1m80cmで仮紐として十分に役目を果たしてくれます。素材はポリエステルで滑りもよく、仮紐を外すときにスムーズに外せます。この簡単さ、ぜひお試しください!

・・・若女将のつぶやき・・・

暑い夏でもあんこが食べたい私のお気に入り「たつぷり庵」のたい焼きです。最近では、いわき店に行く楽しみの一つになっております。店名の通り、たつぷりのあんこが皮からはみ出し、もう皮がメインなのかあんこがメインなのかよくわからないたい焼きですが(笑) あんこは甘すぎずたつぷりすぎても飽きがこないやさしい甘さです。いわき店のスタッフに初めていただいた時はあんこの多さに驚きましたが、最近では普通のたい焼きが「あんこ少ない…」と感じるくらい私の定番たい焼きになりました。いわき店にお越しの際はみなさまぜひ味わってみてください。注) 本店では販売いたしておりませんm(_ _)m

